



目次

一 住宅ノ新築ニツキ國庫ヨリ貸附金ヲ提供スルニ關スル  
一九二〇年一月十日ノ參議院ノ規程 ————— 一

二 住宅ノ新築ニツキ國庫ヨリ貸附金提供スルニ關スル  
一九二〇年一月十日ノ參議院ノ規程ノ施行細則 ————— 一四

三 鑛夫住宅ノ設置ニ關スル國庫補助金ノ供與ニ關スル規程 ————— 三三

住宅ノ新築ニツキ國庫ヨリ貸附金ヲ提供スルニ關スル一九二〇年一月十日ノ參議院ノ規定

第一章 總則

第一條 住宅難ノ排除並ニ移住制度ノ奨励ノ爲本規定ノ標準ニ從ヒ住宅新築ノ補助金トシテ國庫金ヨリ貸附金ヲ供與スルコトヲ得

專ラ石炭鑛業所屬ノ勞働者及保險義務ヲ有スル使用人ノ爲ニスル住宅ノ新築費ニ對シテハ鑛夫住宅ノ建築ニ關シテ制定シタル規程ニ從ヒ特ニ使用セラルル國庫金ヨリ補助金ヲ供與ス

補助住宅及緊急住宅ニ關シテハ國庫貸附金ヲ供與セス

第二條 國庫貸附金ノ供與ハ當該建築年度ニ於ケル使用ニ得ヘキ建築材料ノ標準ニ從ヒ豫メ樹ツルコトヲ得ヘキ建築計画ノ數ニ制限スヘキ將來ノ建築計画ニ對スル國庫貸附金ノ時期ニ遲レタル承諾ニ依リテ既ニ開始シタル工事ノ遂行ヲ危殆ナラセラルルヲ得ス

第三條 國庫貸附金ハ大々配置室房<sup>數室房</sup>ノ高度及ヒ設備上最モ緊要トセ

ラ、ル要件ヲ超越セサル住宅ニ對シテ之ヲ供與ス。地方の事情ニ從ヒ最ニ經濟的ナル建築方法ヲ執ルヲ要ス。

充分ナル庭園ヲ有スル水平建築ニ第一ニ考慮スハク三階以上ノ多數家族家屋ハ都會又ハ都會的發展ノ趨勢ニアル町村ニ於テノ之ヲ許ス三階以上ノ家屋ノ建築ハ最上級州官廳ノ同意アリタル場合ニ限リ之ヲ補助スルコトヲ得特ニ通例建物ノ間隙ヲ填充スル爲ニ之ヲ許スコトヲ得。

第四條 傭主ヨ其使役スル勞働者及用人ノ爲ニ建築スル住宅（企業住宅）ニ對シテハ國庫貸附金ヲ供與セズ農業上ノ傭主ヨ其ノ農業上ノ經營ニ於テ使役スル從業者ノ爲ニ建築スル住宅（農業上ノ企業住宅）ニツイテハ債借契約ヲ法律上勞務契約ニ從屬スルニアラサル限リ最上級州官廳所定ノ細則ニ從ヒ國庫貸附金ヲ供與スルコトヲ得。

第五條 國庫貸附金ハ地方團體（地方團體組合）ハ本規定ニ從ヒ建築費ノ支辨ニ關與ス（地方團體貸附金）且其ノ補助金抵當（第十三條）ニ關スル持分ヲ最上級州官廳ノ同意ナクシテ讓渡シ又ハ質入ヲ爲ササル

ノ義務ヲ負フ場合ニ限リ之ヲ供與ス其ノ外收益計算並ニ國庫補助金ニ依リテ償却セラレサル建築費ノ支辨ノ證明書ヲ提出スヘシ  
農業上ノ企業住宅ニアツテハ地方團體（地方團體組合）ノ關與ヲ度外視スルコトヲ得

## 第二章 貸附金ノ供與及計算

第六條 國庫貸附金ノ額ハ居住面積及ヒ畜舎面積ノ平方米ノ倍数ニ依リテ第八條ノ平均率ヲ以テ之ヲ確定ス。

第七條 張り出シタル屋根下ノ地面ヲ包含シ壁ノ厚サヲ控除セル完全ナル家屋ノ總面積ヲ居住面積ト看做ス一家族家屋ニアツテハ階子段ノ面積ヲ控除スヘシ

居住面積ハ七十平方米以下住宅ノ從物トシテノ厩舎ノ内法（ウチノリ）面積十平方米以下純然タル地方ノ住宅ニアツテハ四十平方米以下ヲ計算ノ基礎トス

最上級州官廳ハ多數ノ子女ヲ擁スル家庭ノ爲ニスル住宅建築ノ目的ヲ

以テ例外トシテ補助金、供共セラルル住宅、一割以下ニワキ八十平方  
米以下、居住面積ヲ計算、基礎ト為スヲ許スコトヲ得

第八條 貸附金計算、基礎トナル各平方米、平均率ハ地方、自治体及ヒ  
専ラ地方的性質ヲ有スル比較的小ナル都会ニアツテハ一階建及ヒ二階  
建ニワキ百六十五馬克其、他、自治体ニアツテハ百八十馬克、三階建  
以上、多数家族家屋ニワキテハ百五十馬克、並ニ月百六十五馬克、畜  
舎面積ニツイテハ七十五馬克ヲ超過スルヲ許サス

第九條 地方団体（地方団体組合）、貸附金ノ額ヲ定ムルハ地方団体（  
地方団体組合）、任トス地方団体（地方団体組合）、貸附金ハ國庫、貸  
附金、三分、一以上タルヲ要ス

第十條 地方（地方、自治体及ヒ専ラ地方的性質ヲ有スル比較的小ナル  
都會）ニ於ケル住宅、新築ノ場合ニハ半額以下、地方団体貸附金ヲ撤  
棄スルコトヲ得此ノ場合ニハ國庫貸附金、引上ヲ行フコトヲ得但農業  
上、企業住宅ハ此ノ限ニアラス

第十一條 地方ニ於ケル住宅、需要カ該地域ニ在籍スルニ非サル者、未

住ニ因ツテ生シタルコト持ニ都會ノ住民ノ地方ヘ向フテノ轉住ニ際シ  
テ生シタルコトヲ證明シ得ヘキトモハ手續、負擔者、申立（第二十四  
条参照）ニ基キ最上級州官廳、同意ヲ經テ全然地方団体貸附金ヲ撤棄  
スルコトヲ得此ノ場合ニハ同シク國庫貸附金ノ引上ヲ行フコトヲ得  
第十二條 住宅ノ其ノ狀況上專ラ自己ノ使役スル労働者及ヒ使用人、利  
益ニ帰スルヲ如ク立場ニアル傭主ハナルヘク國庫及ヒ地方団体貸附金  
ノ減額ヲ來サシムヘシ

第十三條 國庫及ヒ地方団体貸附金（補助金）ノ總額ノ額ニ於テ建  
築用地ニワキ抵当權ヲ設置スヘシ（補助金抵当權）此ノ抵当權ニ對シ  
テハ其ノ順位ニ於テ総建築費ト補助金ノ差額ニ於ケル負擔ノシカ  
優先スルモノトス地代農場手續ニ於テ設置セラレタル移住ニ關シテハ  
最上級州官廳ハ之ニ異レル如置ヲ為スコトヲ得

第十四條 國庫補充金ヲ以テ維持セラルル、スヘテノ新築工事ニ關シテハ  
地方団体（地方団体組合）ハ落成ノ後総建築費ヲ確定シ更ニ貸付住宅  
ニアツテハ貸付料額ヲ自家用住宅ニアツテハ貸付額額ヲ定ム地方団体

(地方団体組合)カ補助貸附金ニツキ國庫貸附金ノ三分一以上ノ割合ヲ以テ関與シタルニアラザルトキハ新築費ノ確定及ヒ借貸料額及ヒ借貸價額ノ決定ニハ補助金裁決ヲ為スヘキ官廳ノ同意ヲ必要トス  
 最上級州官廳ハ地方団体(地方団体組合)ノ代リニ他ノ機關ニ委任スルニ統建築費ノ確定及ヒ借貸價額又ハ借貸價額ノ決定ヲ以テスルコトヲ得

統建築費ハ土地所得費用又ハ資本化シタル地上権ノ地代、建築費及ヒ接地者給付ヲ統括ス土地所得費用ハ原則トシテ戦争前ノ地價ニ相当スル額ニ於テノ見積ルコトヲ許スモノトス  
 地方団体(地方団体組合)又ハ最上級州官廳ヨリ委任ヲ受ケタル機關ノ確定ニ對シテハ二週間ノ期間内ニ裁決ヲ為シタル官廳ニ異議ノ申立ヲ為スコトヲ得

地代農場手續ニ於テ設置セラレタル移住ニ関シテハ最上級州官廳ニ於テ別般ノ処置ヲ為スコトヲ得

第十五條 既ニ豫メ是カ原因ヲ存スルニ非サル限りハ確定ノ日(第十四

條)ヨリ起算ニテ五箇年毎ニ地方団体又ハ第十四條ニ因リ確定ヲ委任セラレタル機關ハ當該地方ノ借貸借市場ノ状況ニ從テ借貸料又ハ借貸價額ヲ審査シ必要ナル場合ニハ新ニ之ヲ確定スヘシ確定手續ニ對シテハ第十四條ノ規定ヲ準用ス

第十六條 借貸料カ第十四條ニ因リ確定シタル額ヲ超過シタルトキハ補助貸附金ハ此増加所得ノ七分ノ四九年々償却ヲ為スヘシ

第十七條 家屋ノ賣却ノ際賣却價額カ統建築費ト補助貸附金トノ間ノ差額ヲ超過シタルトキハ貸附金ハ此ノ差額ヲ超過スル額ノ三分二ノ程度ニ於テ償還期ニ達シタルモノトス

此ノ償還期ハスヘテノ賣却ノ場合ニ於テ資本化シタル増加所得(第十六條)ノ三分二又ハ借貸價額ノ増加(第十五條)ニツイテ到来スルモノトス

第十八條 最上級州官廳ハ國庫貸附金ノ供與ヲ以テ第三十條ニ因リ補助金抵当権ヲ登記スヘキ機關ノ利益ノ為ニスル緊急先買権ニ繋ラシムル旨ヲ定ムルコトヲ得

第十九條 補助貸附金ハ裁決ヲ為シタル官廳又ハ其ノ指定シタル機關、同意ヲ經ズレテ

a. 新築家屋ヲ包含スル土地ノ申請ニ記載シタル目的以外ノ目的、為  
ニ利用シタルトキ

b. 規定數ノ家族ニ宿泊所ニ提供セズマテ貸貸ニ際シ多數ノ子女ヲ有  
スル家庭、從軍者、從軍員傷者及ヒ戦歿者ノ家族ニ優先的ノ斟酌ヲ  
為ササリレトキ

c. 新築家屋ノ擴大又ハ土地ノ上ニ於ケル其ノ他ノ工事、建設ヲ企テ  
タルトキ

d. 買主カ補助貸附金ヨリ生スルスヘテノ義務ヲ引度ケサルトキ  
ハ償還期ニ達シタルモノトス

第二十條 補助貸附金ハ何時タリトモ（分割支払ノ方法ニ於テモ亦）之  
ヲ償還スルコトヲ得

第二十一條 國ハ其ノ貸附金ノ割合ニ應ジテスヘテノ償還ニツキ取得分  
ヲ有ス

第二十二條 補助貸附金ノ供與ニ至リテハ第十四條ノ規定ヲ  
準用シテ最終的ニ家屋ノ價額ヲ定ム建築費（第十四條）ト是ヨリ少キ

最終的ニ確定セラレタル價額トノ間、差額ハ喪失シタル建築費補助金  
ト看做入補助金抵当權ハ其ノ限度ニ於テ消滅ス喪失シタル建築費補助

金ハマツ之ヲ國庫貸附金ニ算入ス  
補助金抵当權、残余ハ四分ノ利子ヲ附シ節約シタル一分ノ利子ヲ以テ

償却スヘシ第十九條及至ニ因ル貸附条件ハ之ヲ削除ス

第二十三條 國庫貸附金ノ評價額ニ從テ建築工事ノ実行及ヒ補助金抵当  
權ノ登記ヲ確保セラレタルトキ之ヲ支払フ

第三章 手續

第二十四條 手續ノ執行ハ地方團體（地方團體組合）ノ任トス公益上、  
移住企業ヲモ手續ノ負擔者トスコトハ最上級州官廳ノ裁量ニ委セラレ  
ル所トス

第二十五條 國庫貸附金ハ手續ノ負擔者ニ於テ建築工事ノ開始前最上級

州官廳又ハ其ノ委任シタル機関ニ之ヲ申請スヘシ補助金裁決ハ最上級  
州官廳又ハ其ノ委任シタル機関ニ於テ之ヲ為ス

第二十六條 申請ニハ豫メ其ノ状況上該住宅ヲ自己ノ使役スル労働者  
及ヒ使用人ノ利益ニ歸スル傭主ニ於テ建築地ノ建築材料又ハ現金ヲ以  
テ住宅ノ建築ニ参加スヘキヤ否ヤ若シ参加スヘシトセバ如何ナル程度  
ニ於テ然ルヤ及ヒ如何ナル方法ニ於テ保證セラルルヤノ問題ヲ説明ス  
ヘシ

第二十七條 其ノ外申請中ニハ何人カ工事ヲ実行スヘキヤ 何人ヨリ  
マク如何ナル条件ノ下ニ建築費ヲ支出セラルルヤ 何人カ土地ノ所有  
者ナリヤ及ヒ如何ナル建築方法ニ於テ新築ノ実行ヲ為スヘキヤヲ記載  
スヘシ マク敷地ノ図取及ヒ設計図ヲ添付スヘシ

第二十八條 手續ノ負擔者ハ建築計画ヲ技術的・經濟的ニ審査シ承諾セ  
ラレタル地方団体貸附金ノ額ニ関スル表示ヲ添付シタル申請ヲ最上級  
州官廳ノ指定スル機関ニ差出スヘシ

第二十九條 手續ノ負擔者ハ建築主ト商議ヲ為シ是ト所要ノ契約ヲ締結

シ承諾セラレタル貸附金ヲ支給シ國庫貸附金ノ額ハ之ヲ手續ノ負擔者  
ニ償還スヘシ最上級州官廳ノ詳細ナル指令ニ從ヒ國庫貸附金ノ前払  
手續ノ負擔者ニ供共スルコトヲ得

第三十條 補助金抵当權ハ地方団体（地方団体組合）ノ利益ノ為ニ之ヲ  
設定ス公益上ノ移住企業ノ手續ノ負擔者ナルトキハ裁決ヲ為ス官廳ハ  
何人ノ利益ノ為ニ補助金抵当權ヲ設定スヘキヤヲ定ム

第三十一條 建築工事ノ開始及ヒ落成ノ時期ハ國庫貸附金ノ供共ニ同ス  
ル裁決中ニ之ヲ指定スヘシ此ノ時期ヲ遵守セサルトキハ國庫補助金ヲ  
削減又ハ拒絶スルコトヲ得

第三十二條 最上級州官廳ハ比較的大ナル地方団体（地方団体組合）又  
ハ公益上ノ移住企業ニ對シ多數ノ建築計画ニ関シテ特別ナル条件ノ下  
ニ共同ノ國庫貸附金ヲ供共シ其ノ個々ノ建築計画ニ對スル分配ヲ地方  
団体（地方団体組合）又ハ移住企業ノ裁量ニ一任スルノ權利ヲ有ス  
（成案裁決）

第三十三條 最上級州官廳ノ委任ヲ受ケタル機関カ國庫貸附金ノ承諾ヲ

拒絶シタルトキハ手續ノ負擔者ハ二週間ノ期間内ニ最上級州官廳ニ抗告ヲ為スコトヲ得

#### 第四章 國庫金ノ分配

第三十四條 勞働大臣ハ個々ノ州ニ對スル國庫金ノ分配ヲ規律ス  
第三十五條 最上級州官廳ハ其ノ請求アリタルトキハ自己ノ承諾ニ且既ニ支払ヒタル國庫貸附金並ニ新築工事ノ狀況及ヒ住宅ノ需要ニ關スル一覽表ヲ勞働大臣ニ提出スヘシ  
第三十六條 國ハ前條ノ一覽表ニ基キ州ニ對シテ國庫貸附金ノ額ヲ支払フ其ノ申請アリタルトキハ各州ニ對シ國庫貸附金ノ前払ヲ為スヘシ

#### 第五章 經過規定

第三十七條 此ノ規程ハ公布ノ當日ヨリ之ヲ施行ス此ノ規程ノ施行前既ニ權限アル官廳ニ建築費補助金ノ承諾ノ申請ヲ提出シアリタル場合ニモ亦此ノ規程ヲ適用ス

第三十八條 一九一八年十月三十一日ノ聯邦參議院所定ノ規程ノ標準ニ從ヒ承諾セラレタル建築費補助金ニ關シテハ此ノ參議院所定ノ規程並ニ最上級州官廳ノ施行規則ヲ以テ標準トス  
第三十九條 一九一八年七月一日以後此ノ規定ノ制定以前ニ着手シ若ハ完成シタル建築工事ニ關シテモ亦現在ノ標準ニ從ヒ國庫貸附金ヲ承諾スルコトヲ得  
第四十條 勞働大臣ハ此ノ規程ノ施行ニ關スル規則ヲ制定スルコトヲ得



二、住宅、新築ニツキ國庫ヨリ貸附金ヲ提供スルニ関スル一九二〇年一月十日、參議院ノ規定ノ施行規則

住宅、新築ニツキ國庫ヨリ貸附金ヲ提供スルニ関スル一九二〇年一月十日、參議院ノ規程第四十條ニ因リ次ノ如ク定ム

第一章 總則

第一條 ニツキテ

第一、住宅、新築ニツキ提供スヘキ國庫金ハ條件付ニ償還スヘキ差当リ無利子ノ貸附トシテ之ヲ供共スルモノトス  
國庫貸附金ノ供共ニ先ツテ出資ニ相当スル利益ヲ得ラルヘキ家屋ノ價額、特ニ賃賃料ヲ適當ナル額ニ於テ定メラレタリヤ否ヤ及ヒ國庫貸附金以外、建築費ノ支辨ハ保證セラレタリヤ否ヤヲ審査スヘシ賃貸家屋ニアツテハ建築費カナルヘク賃貸所得ニ因ツテ利子ヲ生スルニ至ルヤウニスヘシ從來行ハレタル賃賃料ニ對スル賃貸價額ノ騰貴ハ之ヲ回避セシメス其ノ外多クノ場合ニハ地方團體（地方團體組合

カ國庫貸附金ノ三分ノ一以上ノ貸附金ヲ兼諾スルヲ必要トスルコトアリ（第九號參照）

第二、此ノ規定ニ於テ補助住宅ト稱スル其ノ技術的構成、性質上の三十年以下ノ存立ヲ豫見セラルル建築物ヲ謂フ。マタ緊急住宅ト稱スルハ現存セル建築物ノ擴張又ハ改築スルコトニ依ツテ一時的ニ住居ノ目的ノ爲ニ利用シタルモノニシテ建築警察上ノ規則ニ適セサルモノヲ謂フ。即チ左ノ各條ニ該當スル家屋ハ此ノ規定ニ所謂補助及ヒ緊急住宅ノ範圍ニ屬セス  
見、木材、木柱骨組又ハ補助建築材料ヨリ成レル建築物及ヒ  
入ヲ爲スコトニ依ツテ成レル住宅ニシテ三十年以上ノ存立期間ヲ有シ現行ノ建築警察上ノ規則ニ適セルモノ

第二條 ニツキテ

第三、需要ノ確認、爲ニハ比較的大ナル都會ノミナラス地方團體、地方團體組合モ亦直チニ一九二〇年度ニ於テ建築スヘキ家屋ノ總數ヲ

調査スルヲ要ス此ノ場合ニハ從軍員傷者及ヒ從軍者ノ申請ニ對シ特  
 別ニ斟酌ヲ為スヘシ  
 材料ノ盡キタル故ヲ以テ一九一九年度ニハ最早完成スルコトヲ得サ  
 ル旨ノ申請ニ對シテモ、其ノ建築計画ク既ニ着手セラレアリタル場  
 合ニハ優先的ニ之ニ對シ斟酌ヲ為スヘシ  
 個々ノ郡區ニ於テハ使用シ得ヘキ建築材料ノ標準ニ從ヒ落シ得ヘキ  
 大ノ建築工事ニ對シテノニ貸附金ヲ供與シ以テ建築材料ニ對スル需  
 要力供給能力ヲ超過シ價額ノ騰貴ヲ未ダサシムルコトナキヤウ注意  
 スヘシ國庫貸附金ノ補助ヲ受ケル建築計画ハ直ニ建築材料調達所  
 ニ通告スルヲ以テ事宜ニ適セリトナス

第三條ニツイテ

第四、國庫貸附金ヲ一定ノ大サヲ有スル住宅ニ制限スル旨ノ規定ヲ為  
 スコトナシ然レトモ今日ノ經濟的状況室房ノ數及ヒ室房ノ面積ヲ極  
 度ニ制限スルノ考慮ヲ拂フコトヲ必要トス内部ノ裝備ニツイテハ大  
 ニ節約ヲ為スヲ要ス其外見ニツイテハ簡素ニシテ單純ナル住宅ノ性  
 質ニ適合シタル形式ヲ選擇スヘシ

第五、同様ニシテマク開発作業ニツイテハ道路ノ開設、道路ノ横斷及  
 ヒ道路包裝ノ極度ノ節約ヲ要求スヘシ現存セル道路ノ延長ノ場合ニ  
 アリテモ餘リニ過大ナル費用ヲ要スル道路ノ性質ヲ簡易化スルコト  
 ハ往々ニシテ必要ナル所タルヘシ

第六、石灰ニツイテ、著シキ缺乏ヲ考慮シテ建築ニ際シテモマク建築  
 物ノ使用ニ際シテモナルヘク石灰ノ使用ヲ節約シ得ルヲ如キ建築方  
 法ヲ選擇スヘシ、代用材料（例ヘハ粘土ノ如キ）ヲ以テスル建築物  
 ヲ建築シ得ル場合ニハ國庫貸附金ノ供與ヲカクノ如キ建築材料ノ使  
 用ニ繫ラシムルコトヲ得

第七、其ノ實行ニ得ル限リハ各部分ノ典型化ニ考慮ヲ拂フヘシ之ニ關シ  
 テハ獨逸工業標準委員會（事務所、柏林五、五、一七、五）ニ  
 トラシセ四）ノ標準ヲ指示ス

第八、一階又ハ二階建ノ家屋ハ之ヲ平家建ト看做ス（第十八條參照）  
 三階以上ノ建築物ハカクノ如キ建築方法ヲ從來共、建築場所ノ最モ近

接ミタル周囲ニ於テ使用セラレタルニアラサル限りハ國庫貸附金ヲ以テ之ヲ補助スルコトナシ高價ナル地代ハ直子ニ以テ數階建ノ建築方法ヲ辯護スルノ理由ヲラス

第四條及七等五條ニツイテ

第九、傭主カ其ノ所有地内ニ建築シ且傭主ノ所有ニ屬スル住宅ハ特ニ之ヲ企業住宅ト看做ス

傭主及ヒ被傭者——ナルヘクハ各異レル企業ニ屬シ且企業ニ屬セサル者又ハ地方団体ノ加入ノ下ニ——ノ組織シタル公益上ノ建築組合ノ住宅ハ之ヲ企業住宅ト看做サス但シカクノ如キ建築組合ニ對スル國庫貸附金ノ供與ハ大体ニ於テ其ノ状況上第一ニ當該住宅ノ利益ニ浴スル企業カ本規則第十二條ニ依リ出資ニ相應スル利益ヲ生セサル建築費ノ支辨ニ關與スルノ条件ニ繫ラシムヘシ  
農業上ノ企業住宅ニアツテハ特ニ特務契約ノ解約申入カ同時ニマタ債借契約ノ解約申入ヲ其ノ中ニ包藏スル場合ニ於テ債借借契約カ法律上特務契約ニ從屬スルモノトス(第二十三條參照)

第二章

貸附金ノ供與及ヒ計算

第七條ニツイテ

第十、居住面積ノ計算ニ際シテハ階子置場ノ面積ハ階子ノ厨房其他ノ内部ニ建設セララル場合ニアツテモ當ニ之ヲ控除スヘシ

第一階ニ於テ建テ出シタル屋根下ノ室房及ヒ居室ハ其ノ屬スル住宅中ニ算入スヘシサレハ多數家族家屋ニアツテハカクノ如キ室房カ何レノ住宅ニ屬スルヤヲ詳記シ、之ニ依リテ各住宅ノ居住面積ヲ決定スヘシ

第十一、獨身者ノ居宅及ヒ其ノ他之ニ類スル居宅ハソク本末居住ノ目的、為メニ定メラレタル限りハ國庫貸附金ヲ以テ之ヲ補助スルコトヲ得、相シ一人ノ為ニ定メタル居住面積カスヘテ、副室ヲ保セテ大體ニ於テ二十五平方メートル超過スヘカラス

第十二、郡會ノ住宅ニアツテハ自己ノ家計ニ需要ノ在ニ小ナル家畜飼養金ニ限り之ヲ斟酌スルコトヲ得純然タル地方ノ住宅ニアツテハ畜

倉ノ為ニ認可シタル最大面積中ニ穀倉ヲミ算入スルコトヲ得畜舎(穀倉)面積カ四十平方米ヲ超過スルトキハ此ノ規程ノ標準ニ從ヒ四十平方米ノ大サノミヲ國庫貸附金ノ計算ノ基礎ト爲スソ、以上ニ亙リテ補助金ヲ供與スルハ各州所管ノ事項トス

第十三 小移住ノ全計畫上ノ條件ヲ存スル場合又ハ家内作業ニ指定セラレタル従軍負傷ノ移住ニ関スル場合ニハ住宅ニツキ認可シタル最大限度内ニ於テ小ナル商店舖、手工業室及ヒ作業場ヲ斟酌スルコトヲ得

第六條ニツイテ

第十四 地方ノ自治体及地方的發展ノ趨勢ヲ有スル小ナル都會ニ関シテハ最高認可平均率ハ一階及ヒ二階ノ住宅ニアツテハ百六十五馬克ニ階以上ノ多数家族家屋ニアツテハ百五十馬克、其ノ他ノ地方團體ニ関シテハ一階及ヒ二階ノ住宅ニアツテハ百八十馬克ニ階以上ノ多数家族家屋ニアツテハ百六十馬克ト定ム高價ナル建築費ニツキ認可セラレタル最高補助金率ヲ直々ニ是ヨリモ建築費ノ低廉ナル地方ニ

移用スルコトハ回避スルヲ要ス

第十五 一ノ地方團體ノ内部ニ於テモ建築計畫ノ種類ニ因リテ一平方米ニ對スル平均率ヲ各別ニ定ムルコトヲ得一ノ建築物中ニ於テニ屋根下ノ室房ニツイテハ一平方米ノ面積ニ對シ低廉ナル平均率ヲ定ムルコトヲ得

第十六 最小圓面ノ住宅ニ関シテハ建築費ハ比較的高價ナルカ故ニ比較的大ナル住宅ニ於ケルヨリモ居住面積ノ一平方米ニツキ比較的高率ナル平均率ヲ定ムルヲ適当トス

第十七 木材、木桁骨組又ハ代用建築材料ヲ以テスル建築ニ関シテハ居住面積ノ一平方米ニ對スル平均率ハ大体ニ於テ之ニ相当ス室厚ノ建築物ヨリモ低廉ニ算定スヘク特ニ地下室及ヒ屋根下ノ室房ヲ缺ク場合ニ於テ然リトス現存セル建築物ヲ利用スルコトニ依リテ成レル住宅ニアツテハ國庫貸附金ノ實際ノ費用ニ對シテ當該地方ニ於ケル新築工事ニツイテハ國庫貸附金ノ新築工事ノ全建築費ニ對スルト同様ノ比例ニアラシムルカ如キ方法ニ於テ平均率ヲ算定スヘシ

室房ノ償債又ハ將來ニ於ケル原状回復ノ為ノ費用ハ之ヲ算入スルコトヲ得ス

二三

第十八 一家族家屋及ヒニ、完全ナル階ニ於テ獨立シタル住宅ヲ包含スル其ノ外ノ建築物ハ屋根下又ハ地下室ニ於テ個々ノ從屬的室房ヲ包藏スル場合ト雖モ之ヲ二階建ト看做スニ、完全ナル階ト獨立ナル住宅トシテ建テ出シタル屋根下ト有スル家屋ハ之ヲ三階建ノ家屋ト看做ス通例單純ナル屋根ヲ有スルニ、完全ナル階ト建出シタル屋根下ト有スル一ノ完全ナル階ヲ選擇スヘシ

第十九 畜舎ヲ住宅ノ地下ニ建込シ又ハ地下室トシテ家屋ノ下ニ置キタルトキハ畜舎面積ニ関シテハ畜舎ニ對スル平均率ノミヲ以テ計算ヲ為スコトヲ得

畜舎ノ面積上ニ於ケル乾草置場其ノ他之ニ類スル設備ハ特ニ計算中ニ加フルコトヲ得ス

### 第九條ニツイテ

第二十 地方団体貸附金ハ建築主ヨリ支辨スヘキ費用及ヒ國庫貸附金

ト合シテ建築計画ノ財政的運用ヲ可能ナラシムルヲ如ク定メヘシ  
地方団体ノ給付又ハ供給ヲ地方団体貸附金ニ算入スルコトヲ許サズ  
建築主ノ地方団体ニ對スル接地者給付其他ニ關スル義務モ亦地方団体ヨリ供共スヘキ貸附金ニ對シテ直接相殺ヲ為スコトヲ得ス  
地方団体貸附金ハ本規程第十三條ニ因ル抵当權ノ持分トシテ登記スヘシ(地方団体貸附金ニ對スル債主ノ参加ニ關シテハ第三十八條參照)

### 第十條ニツイテ

第二十一 大都會ノ近傍ニ於ケル郊外地方団体ニ於テモ亦大都會ノ住民ノ為、建築計画ヲ定メラレタル場合ニハ地方団体貸附金ノ半額迄ヲ批棄スルコトヲ得

國庫貸附金ヲ地方団体ノ引受ケタル全持分額迄引上フルヲ要セズ國庫貸附金ノ引上ヲキモ亦充合ナルコト往々ニシテ然リトス建築計画ヲ國民經濟上ノ原因ヨリシテ特ニ奨励スルノ價值アリ、マタ申請人ノ財産狀態上貸附金ノ引上ヲ行フコトナクシテハ建築計画ヲ実行シ

得ベカラサル場合ニハ例外トシテ地方団体会分擔額、最低率以上ニ國庫貸附金ヲ引上クルコトヲ得

第十一條ニツイテ

第二十二 地方団体会分擔金ノ全額ニ亘ツテ拋棄ヲ為スヘキ場合ニハ規定シク条件ヲ成就シタルコトヲ詳細ニ證明スヘシ第十一條ハ通例個々ノ建築工事ニ関セスシテ軍ニ例ヘハ地方的從業ニ引渡サレタル從軍負傷者又ハ勞働者團ノ大規模ナル新移住ニ関スルニ止マル場合ニ限り之ヲ適用スヘシ(國庫貸附金ノ引上ノ程度ニ関シテハ前掲第二十一條參照)

第十四條ニツイテ

第二十三 總建築費ノ審査ニ際シテハ絶対ニ必要ナル費用ノミヲ算入スルコトヲ得正当ナル價額ヲ定メタル建築材料ニアツテハ是ノミヲ計算中ニ加フルコトヲ得 國有ノ山林ヨリ特價ヲ以テ木材ヲ供給セラルル建築工事ニアツテハ之ニ因ツテ生スル費用ノ減少ヲ斟酌スヘシ

第十四條 第十五條及ヒ第二十二條ニツイテ

第二十五 將來特別ナル規律ニ依ツテ本規則ノ標準ニ從ヒ定メタル貸料ヲ以テ仲裁所ヲモ拘束スルモノト宣告セシコトヲ期ス 貸付料ノ決定ニ際シ旧來存スル同等ノ價值ヲ有セタル住宅ノ貸付料ヲ標準ト為スコトヲ得ス

第十四條 第十五條 第十六條 第十七條及ヒ第二十二條ニツイテ

第二十六 農業上企業住宅ニアツテハ第十四條第十五條第十七條及ヒ第二十二條ニ因ル確定ヲ地方団体会ニ依ツテ行ハスシテ常ニ直近上級地方団体会組合又ハ最上級州官廳ヨリ指定スヘキ機關ニ依ツテ行フヲ要ス

第十六條 第十七條 第十九條 第二十一條及ヒ第二十二條ニツイテ

第二十七 國庫貸附金ノ償還ニツイテハ特別ナル指圖ヲ為ス

第十七條ニツイテ

第二十八 賣却ノ臨時經費(租税、裁判所費用其ノ外)ハ此ノ規則ニ所謂代價ニ屬セス

第二十九 入へて國庫貸附金ノ補助ヲ受ケタル新築家屋ノ賣却ニ先ク  
 子家屋所有者ハ償還料及ヒ償還額ノ確定ヲ申請スヘシ家屋所有者  
 カ申請ヲ怠リタルトキハ第十四条ニ因リ権限ヲ有スル機関ハ家屋ノ  
 賣却後ニ於テモ亦此ノ價額ヲ確定シ第十七条ニ因リ計算ノ基礎ト為  
 スコトヲ得

第三十 地方ノ移住ニアツテハ代價中ニ包含セラルル農業上ノ財産目  
 録、現存セル收穫貯蓄物及ヒ其ノ他之ニ類スル物ノ價額ハ此ノ規則  
 ニトワテ標準トナル代價中ニ算入スヘカラス

第十八條ニツイテ

第三十一 國庫貸附金ヲ以テ補助ヲ為シタル新築家屋ノ投機的利用ヲ  
 妨害セシカ爲地方団体貸附金ノ供與ニ際シ詳細ナル条件ヲ定ムルハ  
 地方団体ニ一任ス例ヘハ賣却ニ際シ賣買契約中ニ記載セラレタル代  
 價ヲ隱蔽スルノ目的ヲ以テ特別ナル契約ヲ締結シタル場合ニツキ即  
 時ニ貸附金ノ解約申入ヲ為ス權利ヲ認ムルカ如シ

第十九條ニツイテ

第三十三 農業上企業住宅ニ對スル國庫貸附金ノ場合ニアツテハ償還  
 借契約ヲ法律上勞務契約ニ從屬セシメラルル場合ニハ償附金ヲ以テ  
 償還期ニ達シクルモノト爲スノ一事ハ土地台帳ニ登記スヘキ爾後ノ  
 條件ト看做ス

第二十二條ニツイテ

第三十三 家屋ノ落成及ヒ建築費ノ確定アリタル後國庫貸附金ノ最  
 終的算定アル迄ノ間ニ家屋ニツキ大規模ナル建築上ノ改善ヲ企圖  
 シタルトキハ是カ爲ニ費ミタル額ハ第十四条ノ標準ニ從ヒ之ニ依  
 ハテ取得スルコトヲ得タル増加後償料ヲ相當ニ斟酌シテ建築費中  
 ニ算入スルコトヲ得

第二十三條ニツイテ

第三十四 一時的ニ建築物ヲ所有スヘキ地方団体及ヒ公益上ノ移住  
 会社ニアツテハ補助金抵当權ノ登記ハ土地ノ明渡ヲ單獨承継者ニ  
 ツイテ爲ス者ノ書面ヲ以テスル保證交付セラルルヲ以テ足レリト  
 ス

其、外最上級州官廳ハ最終的支払ニ先タテ行ヒタル登記、證明ヲ請ホスルコトヲ得

第三十五 建築計画ヲ全範圍ニ亘リテ実行セラレサル限りハ各場合ニ於テ最終的支払ニ先タテ新ニ貸附金ノ額ヲ確定スルヲ要ス  
第三十六 貸附金ノ支払ニ対スル申請ノ場合ニハ支払ノ指令ヲ為ス機關ニ對シテ

- a 建築警察上ノ慣例調査ヲ行ヒ且補助金裁決ニ從ツテ建築ヲ完成シタル旨、地方団体ノ長ノ表示
- b 前掲第三十四條ニ因リ土地台帳ヘ登記スルコトヲ絶対ニ必要トスル限りハ該登記ノ文言ヲ提出スヘシ

### 第三章 手續

第二十四條ニツイテ

第三十七 公益上ノ移住企業者ノ大体ニ於テ單獨承継者ヲ建築物ノ占有權ヲ取得スルニ至ル迄ノ間ニ限り手續ノ負擔者ト看做ス爾後

ハ特ニ貸借借ノ確定及ヒ最終的計算ノ為ニ第十四條ニ因リ權限ヲ有スル機關公益上ノ移住企業者ニ代ル

第二十六條ニツイテ

第三十八 傭主ノ参加ハ特ニ出資ニ相当スル利益ヲ擧ケサル國庫貸附金ニ依ツテ填補セラレサル建築費ノ支辨ノ責ニ於テ存ス傭主ノ地方団体貸附金ノ支辨ニ参加スル限りハ地方団体ノ締結スヘキ特別ナル契約ニ於テ或ハ生スヘキ償却ニツイテノ取得分ヲ確保スルコトヲ得

第二十九條ニツイテ

第三十九 承諾セラレタル貸附金ノ支払及ヒ前払金ノ供共ハ特ニ迅速ニ行フヘシ裁決ヲ為シタル官廳ハ粗疎瓦工事ノ落成ニタル上、貸附金ノ四分ノ三以下ノ前払金ノ必要ナル場合ニハ地下室ヲテノ建築ノ落成ノ際既ニ建築ノ実行ノ為ニ事實上支出シタ費用ノ額迄ノ前払金ヲ供共スルコトヲ得地方団体及ヒ公益上ノ建築企業者ハ個々ノ建築計画ヲ尚未タ開始セラレサル場合ト重テ尚ホ所要ノ建築材料ノ調達、為貸附金ノ三分ノ一以下ノ前払金ノ供共ヲ受クルコトヲ得地下



三〇  
室マテ、建築ノ落成、際ニハ之ニ對シ其ノ外ニ建築ノ実行、為ニ市  
實上支出シタル爾後、費用額迄、前払金ヲ供與スルコトヲ得  
前拂金ハ個々、建築主ニ對シテ供與セスシテ手續ノ負擔者ニ對シテ  
供與スルモノニシテ手續ノ負擔者ハ建築計画ヲ実行セラレサルカ又  
ハ申請ニ從ツテ実行セラレサル場合ニハ償還ヲ為スノ義務ヲ負フモ  
トス

### 第三十條ニツイテ

第四十 補助金抵當權ノ登記ノ利益ヲ度クル機關ハ抵當權ニ依ツテ擔  
保セララルル義務ノ履行ヲ監督スルヲ要ス

### 第三十二條ニツイテ

地方団体の貸附金ノ支辨ニ関與セサ、場合ニハスヘテ補助金抵當權  
ヲ地方団体組合ノ利益ノ為ニ設定セシムルヲ適当ナリトス  
第四十一、成案裁決ノ場合ニアツテハ住宅ノ總數ニ對シテ中間的單獨  
貸附金ヲ兼諾スルコトヲ得ヘク一方單獨貸附金ノ確定ハ手續ノ負擔  
者ニ一任セララルルモノトス

## 第四章 國庫金ノ分配

第三十五條及ヒ第三十六條ニツイテ

第四十二、詳細ナル規律ハ之ヲ留保ス

## 第五章 經過規定

### 第三十八條ニツイテ

第四十三、各州ニ於テ一九一八年十月三十一日ノ聯邦參議院所定ノ規  
程ニ基ク資金ヲ使用スルコトヲ得ヘキ限リハ從來ノ規程ノ標準ニ從  
ヒ此ノ資金ヲ使用スルハ各州ニ一任セララル所トス但シ新規程ノ施  
行後ニ何月内ニシテ且既ニ豫備商議ヲ行ヒタル建築計画ニ對シテハ  
ニ使用シ得ルモノトス  
其ノ外尚ホ旧來ノ基金中現存スル資金ハ新規程ノ標準ニ從ヒ之ヲ使  
用スヘシ

### 第三十九條ニツイテ

第四十四

既ニ開始シ又ハ落成シタル建築物ニ対スル國庫貸附金ノ兼  
諾ノ申請ハ參議院ノ規程ノ施行後三個月ノ期間内ニ於テノ之ヲ提  
出スルコトヲ得

一九二〇年一月二十二日伯林ニ於テ 勞働大臣 よつヒ、あーかいふ

三 鑛夫住宅ノ設置ノ為ニスル國庫補助金ノ供與ニ関スル規程

第一條

恒久的ニ專ラ石炭鑛業ノ勞働者 保險義務若ハ保險ノ權利ヲ有  
スル使用人 又ハ社会上是等ノ者ト同一視スヘキ吏員ノ為ニスルモ  
ト定メラレタル住宅ノ建築費並ニ鑛夫住宅ノ新築ニ依ル移住ノ從屬物  
トシテ必要トナリタル公益上ノ建築物ノ為ニ石炭價額ノ昂騰ノ結果一  
九一九年十二月三十日ノ國石炭組合ノ決議ニ依リ此ノ目的ノ為ニ使用  
シ得ルコトトナリタル資金中ヨリ以下ノ規定ノ標準ニ從ヒ補助金ヲ供  
與ス(補助貸附金)

第二條

補助金ハ

補助及緊急住宅ニ対シテハ補助金ヲ供與セズ

a 總建築費ト資本化シタル貸貸者ノ負擔トノ差額以下ニ於テ与分無

利息ヲ以テ條件付ニ償還シ利息ヲ附スヘキ貸附金トシテ急迫ナル場

合ニハ例外トシテ出資ニ相当スル利益ヲ率々ヘキ建築費ヲモ 貸附

金トシテ通例ノ利率ヲ以テ供與スルコトヲ得

金額ノ償還ヲ為スヘキ少額利息ノ貸附金トシテ  
供共スルコトヲ得

第三條 石炭企業組合ハ石炭償額ノ昂騰ヨリ生スル額ヲ毎月特ニ勞働大  
臣ノ指定スル機関ニ交付ス此ノ額ハ該機関ニ於テ特別ニ記帳シ國鑛業  
勞働共同組合(第四條)ノ権限アル機関ノ使用ニ留保セラルル資金ハ其  
ノ償還セラルル企業区域ニ向テ使用スヘシ國鑛業勞働共同組合ハ各  
区域ヨリ收入セラルル資金ノ一割以下ヲ他ノ区域ニ於テ使用スル旨ヲ  
定ムルコトヲ得

第四條 資金ノ承諾ニ関スル決定ハ最上級官廳又ハ其ノ指定スル機関ノ  
任命スル代表者ノ助言的参加ノ下ニ國鑛業勞働共同組合ノ権限ヲ有ス  
ル機関ニ依テ之ヲ行フ

各企業組合ノ区域ニツキ勞働共同組合ノ組織ニ関スル原則ニ從テ國  
鑛業勞働共同組合ノ選任スル委員會ヲ以テ権限アル機関トス  
第五條 補助金ノ供共ニ関シテハ次ノ規定適用ス

一 補助金ハ其ノ大サ、配置、室房ノ數、室房ノ高サ及ヒ裝備上絶対

ニ必要トスル要件ヲ超越セサル住宅ニ對シテ之ヲ供共ス地方的關係  
上最モ經濟的ナル建築方法ヲ要求スヘシ

一 住宅ノ居住面積ハ一般ヲ通シテ七十平方メートル以下トス多数ノ子  
女を擁スル家族ノ爲ニスル住宅ノ建築ニツイテハ例外トシテ補助金  
ノ供共セラルル住宅ノ一割ニツキ八十平方メートル以下ノ居住面積ヲ基礎  
トナスコトヲ得壁ノ厚サニ對スル面積ヲ除キ建出シタル屋根下室房  
ノ面積ヲ包含セル完全ナル住宅ノ總面積ヲ以テ居住面積トス一家庭  
家屋ニアツテハ階段ノ面積ヲ控除スヘシ

住宅ノ從物トシテ内法(ハウナリ)十平方メートル以下ノ蓄舎、純然タル  
地方ノ郡ニ於テハ二十五平方メートル以下ノ蓄舎ヲ許可スルコトヲ得

C 第一ニ充分ナル庭園ヲ有スル平家建ヲ考慮スヘシ三階建ノ多数家  
族家屋ハ都會又ハ都會的發展ノ趨勢ニアル地方ノ自治体内ニ於テ、  
之ヲ許可スルコトヲ得三階建以上ノ家屋ノ建築ニツイテハ最上級  
州官廳ノ許可アリ特ニ一般ニ建物ノ間隙ヲ填充スル目的ヲ以テスル  
場合ニ限り之ヲ補助スルコトヲ得

d 傭主の其ノ使役スル労働者及ヒ使用人、為ニ建築スル住宅ニ對シテハ該住宅ノ石炭鑛業ノ利害関係者ヨリ成ル公益上ノ建築組合（組合・會社其ノ他之ニ類スルモノ）ノ所有ニ移サレタル場合ニ限リ補助金ヲ供與ス前段ノ建築組合ニ對スル所有權ノ移轉カ不可能ナル間ハ管理ノ際ニ於ケル被傭者ノ充分ナル協カヲ保障スルヲ要ス保障カ果シテ行ハレタルヤ否ヤニ關シテハ爭アル場合ニハ第四条ニ因リ權限ヲ有スル機關裁決ヲ為シ之ニ對スル抗告ニツイテハ労働大臣及ヒ經濟大臣裁決ヲ為ス

第六條 補助貸附金ハ次ノ場合ニ償還期ニ達シタルモノトス

- 一、傭主カ第五條ノ規定ノ執行ノ為メタル條件ヲ行ハカルトキ
- 二、第四條ニ因リ權限ヲ有スル機關ノ同意ヲクシテ
  - e 土地ト其ノ上ニ建築セラルタル建築物トヲ併セテ申請中ニ記載セラルタル以外ノ目的ノ為ニ利用シタルトキ
  - g 規定シタル家族數ニ對シテ宿泊所ヲ供與セズ、マダ貸貸ニ際シ多數ノ子女ヲ擁スル家族、從軍者及ヒ從軍負傷者ニ優先的對酌ヲ為

廿サリシトキ

c 新築家屋ノ擴張又ハ土地ノ上ニ其ノ外ノ建築物ノ建築ヲ企圖シタルトキ

d 住宅ヲ石炭鑛業ノ労働者又ハ使用人以外ノ者ニ讓渡若ハ貸貸ニタルトキ

e 土地ノ所有者又ハ地上權者カ鑛夫ノ職業ヲ變更シタルトキ

f 賣却ニ際シ買主カ補助貸附金ヨリ生スルスヘテノ義務ヲ承継セタルトキ

第七條 物上擔保ニ依リ補助貸附金ヲ以テ建築シタル住宅ヲシテ其ノ本來ノ公益上ノ目的ヲナルヘク恒久的ニ維持セシムルノ注意ヲ為スヘシ

第八條 第四條ニ因リ權限ヲ有スル機關ハ住宅ノ落成ノ後貸貸料（當該地方ノ貸貸借市場ノ狀況ニ因リ貸貸價）ヲ確定ス

既ニ其ノ以前ニ是カ原因ヲ存セタル限リハ地方團體ハ利用ノ當時ヨリ二十年後ヲ最後トシテ毎五年ニ當該地方ノ貸貸借市場ノ狀況上相當ナル貸貸率ヲ確定シ之ヲ第四条ニ因リ權限ヲ有スル機關ニ通告ス、第四

条ニ因リ権限ヲ有スル機関ハ独立シテ且当初ヨリ支払ハルヘキ借賃料  
又ハ借賃價額ヲ確定シ労働大臣及ヒ經濟大臣ト協調シテ供與シタル貸  
附金ニ利息ヲ附シ且之ヲ償却セシムヘキヤ否ヤ若シ利息ヲ附シ且之ヲ  
償却セシムヘシトモハ如何ナル範圍ニ於テスヘキヤヲ定ム

第九條 家屋ノ賣却ニ際シ賣買價額ヲ總建築費ト補助貸附金トノ差額ヲ  
超過スルトキハ三分ノ二ノ額ニ於テ償還期ニ達シタルモノトス  
償還期ハスヘテノ賣却ノ場合ニ成テ資本化シタル増加所得ノ三分ノ二  
ニツキ又ハ借賃價額ノ確定シタル引上額ノ資本化シタル額ノ三分ノ二  
ニツキ到来ス(第八條)

第十條 労働大臣 經濟大臣ノ指定シタル機関ノ利益ノ為ニ建築敷地ニ  
ツキ供與シタル貸附金額ニ於テ抵当権ヲ設定スヘシ(補助金抵当権)  
總建築費ト補助貸附金トノ差額ノ額ニ於テスル負擔ニ限リ其ノ順位ニ  
於テ此ノ抵当権ニ優先ス

第十一條 第八條及ヒ第九條ニ因リ償還セラルヘキ額ハ全然石炭鉱業ノ  
労働者及ヒ使用人ノ住宅制度ノ促進ノ為ニシテ使用スルコトヲ得

第十二條 建築主ハ補助貸附金ニ對スル申請並ニ基礎物件ヲ各一通ノ正  
本ニ於テ第四條ニ因リ権限ヲ有スル機関及ヒ最上級州官廳ノ指定スヘ  
キ機関ノ一ニ提出ス

最上級州官廳ノ指定スヘキ機関ハ申請カ公法上及ヒ移住技術上ノ利益  
ニ適合スルヤ否ヤヲ審査ス前段ノ機関ハ基礎物件ト共ニ申請第四條ニ  
因リ権限ヲ有スル機関ニ轉達ス

第十三條 申請中ニハ何人カ建築工事ヲ行フヘキヤ如何ナル程度ノ借賃  
料又ハ借賃價額ヲ承認スヘキヤ何人ヨリシテ且如何ナル条件ノ下ニ建  
築費ヲ支出セラルヘキヤ何人カ土地ノ所有者タルヤ及ヒ如何ナル建築  
方法ニ於テ新築工事ノ実行ヲ為スヘキヤヲ記載スヘシ傭主カ其ノ使役  
スル労働者及ヒ使用人ノ為ニ住宅ヲ建築セント欲スルトモハ尚ホ其ノ  
外ニ如何ナル方法ニ於テ第五條ノ規定ニ從フヘキヤヲ記載スヘシ  
敷地ノ圍取及ヒ設計圖ヲ添付スヘシ

第十四條 工事ノ落成ニ先ク特ニ建築材料ノ調達ノ為ニモ前払ヲ承諾  
スルコトヲ得

第十五條 第四條ニ因リ権限ヲ有スル機関ハ最上級州官廳ノ指定スル機

関(第十二条)ニ補助金ノ供共ニ関スル裁決ノ謄本ヲ送付ス

第十六條 補助金ハ申請ニ因ル工事ノ実行及ヒ補助金抵当権ノ登記ヲ保

證セラルタルトモ支払ハルモノトス申請ニ因ル工事ノ実行ハ第十二

条ニ因リ確定シタル機関ノ證明書ヲ以テ之ヲ證明スルヲ要ス此ノ場合

ニハマア総建築費ヲモ證明スヘシ

第十七條 工事ノ開始及落成ノ時期ハ補助金附金ノ供共ニ関スル裁決中

ニ於テ之ヲ指定スヘシ建築主ノ過失ニ因リ此ノ期間ヲ遵守セザルトモ

ハ補助金ノ減額又ハ拒絶ヲ爲スコトヲ得

第十八條 第四條ニ因リ権限ヲ有スル機関ハ特別ナル条件ノ下ニ多数ノ

建築計画ニツキ個々ノ建築主ニ共同ノ補助金ヲ供共シ個々建築計画ニ

対スル其分配ヲ建築主ノ裁量ニ一任スルノ権利ヲ有ス(成案裁決)

第十九條 補助金ノ承諾ヲ拒絶セラレタルトキハ申請人ハ二週間ノ期間

内ニ國勞働共同組合ニ抗告ヲ爲スコトヲ得國勞働共同組合ハ勞働大臣

經濟大臣及最上級州官廳ノ立會ノ下ニ裁決ヲ爲ス國勞働共同組合ノ内

部ニ於テ合意ヲ見ル能ハサル場合ニハ勞働大臣ハ經濟大臣ト相協調シ

テ裁決ス

第二十條 第四條ニ因リ最上級州官廳ノ任命シタル代表者ハ公益保護ノ

為第四條ニ因リ権限ヲ有スル機関ノ決議ニ対シ一週間ノ期間内ニ異議

ヲ申立ツルノ権利ヲ有ス異議ハ爾後ノ一週内ニ書面ヲ以テ是ノ理由

ヲ説明スヘシ

異議ニ關スル裁判ヲル迄ノ間ハ異議ヲ申立アリタル決議ヲ実行スルヲ

得ス

異議ニ關シテハ勞働大臣及ヒ經濟大臣ハ最上級州官廳及ヒ國領業勞働

共同組合ヲ審述シテ是ノ裁決ヲ爲ス

第二十一條 此ノ規程ノ制定以前ニ開始シタル工事ニ対シテハ以上ノ規

定ノ履行ヲ保證セラルル場合ニハ此ノ規程ノ標準ニ從ヒ補助金ヲ供與

スルコトヲ得

第二十二條 國領業勞働共同組合 其ノ隸屬機関又ハ第四條ニ因リ組織

セラレタル其ノ他ノ機関ノ解散ノ場合ニハ國勞働共同組合ハ何人ニ対

シ

こゝ権限ヲ移轉スヘキヤヲ指定ス決議ハ労働大臣及ヒ経済大臣ノ同意ヲ要トス

第二十三条 労働大臣及ヒ経済大臣ハ此ノ規程ノ施行ノ為ノ規則ヲ制定スルコトヲ得

一九二〇年一月二十一日 伯林ニ於テ 労働大臣

しゆりつけ

追加 (二)

鑛夫住宅ノ設置ノ為ニスル國庫補助金ノ供与ニ關スル一九二〇年一月二十一日ノ規程第一條ハ第三項トシテ次ノ注文ヲ追加ス

労働省及ヒ経済省ノ同意アリタルトキハ例外トシテ第一項ニ記載シタル資金中ヨリ鑛夫住宅ノ建築ノ促進特ニ建築費用ノ低下ヲ期待シ得ヘキ企業ニ對シテモ補助金ヲ供與スルコトヲ得

一九二〇年五月十八日 伯林ニ於テ 労働大臣 しゆりつけ

追加 (二)

鑛夫住宅ノ設置ノ為ニスル國庫補助金ノ供與ニ關スル一九二〇年一月二十一日ノ規程ハ其ノ第一條ニ次ノ注文ヲ追加ス

現行ノ州法上ノ規定ニ基キ移住ノ許可ヲ為スニツキ建築主ニ公益上ノ目的ノ為ニスル給付(學校及ヒ寺院ノ建物) 地方團體關係ノ新規律其ノ他ノヲ課スルコトヲ得ヘキトキハ此ノ給付ニツイテモ補助金ヲ承諾スルコトヲ得

其ノ他ノ場合ニアツテモ廣汎ナル新移住ニ際シカクノ如キ補助金ナク  
シテハ鑛大住宅ノ設置ノ結果トシテ地方団体ノ負擔ヲ招来シ、而シテ右ノ  
負擔カ地方団体ノ給付能力ヲ超過シ且地方団体ノ財政上ニ永続的ノ不安  
先ヲ惹起スルノ虞アルトキハ移住ノ許可ニ對シテ適用セラル、規定ノ範  
圍内ニ於テ最上級州官廳ノ代表者ノ同意ヲ經テ前項ノ補助金ヲ承諾スル  
コトヲ得

勞働大臣ハ經濟大臣ト相協議シテ必要ナル訓令ヲ發ス特ニ勞働大臣ハ  
個々ノ住宅ニソキ平均ニ於テ超過スヘカヲヤル額ヲ定ムルコトヲ得  
一九二〇年九月三十日柏林ニ於テ 勞働大臣 どんとるふらうへ



英國住宅資金補助ニ關スル住宅委員會最終報告書

社會局調